

捲土重来



LYNN JOHNSTON 著

ストーリー

LYNN JOHNSTON

イラスト

GORLASSAR

シニア・ディレクター、ストーリー&フランチャイズ デベロップメント

VENECIA DURAN

シニア・マネージャー、ライティング&ブックス

MATTHEW COHAN

エディトリアル・スーパーバイザー

CHLOE FRABONI

シニア・エディター

MEGAN WALKER

シニア・ブランド・アーティスト

SOPHIE ERB

プロダクション

BRIANNE MESSINA, TAKAYUKI SHIMBO, JT TORREA, QIANNAN ZHANG

ゲーム・チーム・コンサルタント

JEFF CHAMBERLAIN, MIRANDA MOYER, NESSKAIN,
DION ROGERS, JUDE STACEY, JUSTIN RICHMOND

日本語翻訳

SACHI MORITO



Blizzard.com

© 2026 Blizzard Entertainment, Inc. BlizzardおよびBlizzard Entertainmentのロゴは、米国およびその他の国におけるBlizzard Entertainment, Inc.の商標または登録商標です。
Published by Blizzard Entertainment.

このストーリーはフィクションです。本作品に登場する名前、キャラクター、場所、出来事は、著者または作画者の想像による産物または架空のもので、実在する人物（存命中または故人）、出来事、団体、場所に類似するいかなる描写も、風刺的な意図はなく、偶然によるものです。

Blizzard Entertainmentは著者や第三者のウェブサイトもしくはそのコンテンツを管理しておらず、またそれらについて一切の責任を負いません。

捲土重来

静寂、暗闇、孤独——自尊心を満たすことに夢中になっていたあの頃は嫌っていたそれらが、今は内省に意識を沈めてくれる。そうして自らに降りかかった試練を振り返る中で学んだことがあるとすれば、最大の敵はヴェンデッタではなく、この世界の他の誰でもなく、己の慢心だということだ。

谷底に突き落とされたあの日以降、私を最初に訪れたのはウィドウメイカーだった。かつてのタロン最強の暗殺者は、何年もの間トラウマを胸の内に抑え込みながら、オデオレインの処置を通して殺しの才を完璧なまでに磨き上げてきた。それらすべての影響を脱した今、一体何に、あるいは誰に心を苛まれているのかは定かではないが、以前の精彩を欠いていることだけは確かだ。それでも、己の力を取り戻す決意を持ってここへ来た。その野心は、私にとっても大いに役立つだろう。

その後、程なくして現れたのはリーパーだ。体勢を整えながら覚束ない足取りを隠そうとしていたが、その様子は明らかに不自然だった。ウィドウメイカー同様、能力を安定させていたモイラの処置なくして肉体を維持することは困難なようだ。鋭敏な身のこなしは影を潜め、弱みを誤魔化し矜持を保とうとするのに精一杯だ。

一方で、これまで怒りに曇っていたその精神はかつてないほどに研ぎ澄まされている。仮面の奥の双眼が、私の失われた片腕を突き刺すように見つめているのがわかる。私が過去の栄光に縋る愚かな落伍者ではなく、己にとって価値ある指導者たり得るかを見極めているのだ。今の私がどう映るかはさておき、奴に残された選択肢は二つに一つ——ヴェンデッタの父を殺めた報復がいずれ訪れるのを待つか、私の歓迎を受け入れるかだ。

ソンプラの登場は、私に騒々しさというものを久方ぶりに思い出させてくれた。しかしながらその代名詞ともいえる軽口は、今ではただ無関心を装うための道具でしかない。









ここへ来た理由は明白だ。奴が私に忠誠を見せる素振りをする時は、必ず背後に動機があった。時にそれは隠された真実を追求するため。今回は、真に忠誠を誓う存在——シグマを救うためだ。タロンや私に対する思惑は重要ではない。奴はヴェンデッタの失墜を望んでいる。こちらに力を貸せば協力するまでだ。

かつて私の最高の精鋭だった三人は、それぞれの苦難に直面しながらも、まだここに立っている。タロンを配下に収めていた頃は、計画を押し進めるに足る力——強力な資質を持った者たちが私の前に揃っていた。だが、現在残されている戦力を考慮すれば、これまでとは違う新たな戦略を見出す必要がある。

まず、私は奴らの信頼を勝ち取らなければならない。奴らは、ヴェンデッタの投げかけた試練に私が打ち勝てるのか疑問に思っていることだろう。当然であり、むしろ称賛に値することだ。盲目的に指導者を信じることは、失敗を自ら選ぶようなものだ。

ヴェンデッタの一時の勝利は私の敗北を意味しない。私を再び高みへと押し上げるための試練だったのだと、必ず証明してみせよう。岩を掴むたび、崖を乗り越えるたびに、覚悟は強まった。私が切り開く新たな道は、全員がそれぞれの目的を達成する助けになるだろう。

役者は集い、舞台は整った。我々の未来に必要な駒はあと一つ——そのための第一歩を私は今、踏み出そうとしている。

